

# 北海道新幹線新函館（仮称）開業による 北海道と東北との連携強化促進事業

## 調査報告書 概要版

平成25年2月

北海道総合政策部

（委託先：株式会社 北海道二十一世紀総合研究所）

# 1. 調査概要

## (1) 調査目的

北海道新幹線の新青森・新函館（仮称）間の開業を平成 27 年度末に控え、北海道と東北地域との観光、経済、文化等の一層の連携・交流の拡大が期待されている。

本調査は、両地域の連携強化に向け、従来の北海道・東北地域間の連携事例、北海道新幹線開業による新たな連携・交流の可能性、新幹線既開業地域における地域間連携の先進事例等を調査し、今後の両地域間の連携強化に向けた取組方策を検討する際の基礎資料とすることを目的とする。

また、北海道と東北地域との連携強化をテーマとしたフォーラムを実施し、両地域の関係強化や北海道新幹線開業の周知を併せて実施する。

## (2) 調査内容・手法

### ①これまでの交流の経緯検証

文献調査やヒアリング等を通じた北海道・東北の交流の歴史を考察し、現在に至るまでの交流内容の変化、両地域の関係の変化を整理する。

### ②北海道新幹線開業による変化の考察

統計データや新幹線開業地域における先進事例調査等から、北海道新幹線開業による交流人口増加、それに伴う北海道と東北地域との新たな交流ポテンシャルについて検討する。

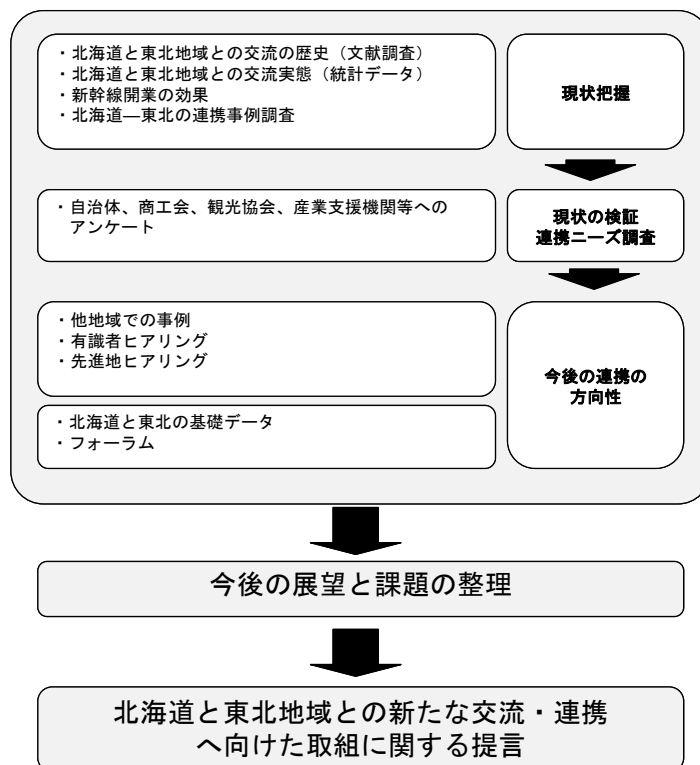
### ③北日本交流・連携フォーラムの開催

北海道新幹線開業に伴う北海道と東北地域との新たな交流連携のあり方を議論するフォーラムを開催し、道民および東北地域住民に対して北海道新幹線開業の意義や今後の連携可能性について広く周知する。

### ④北海道と東北地域との新たな交流・連携へ向けた取組に関する提言

(1) ～ (3) で得られた調査結果を元に、北海道と東北地域の新たな交流・連携へ向けた取組に関する提言を行う。

## ○調査フロー



## 2. 調査結果

### (1) 北海道・東北の交流の歴史

#### 【明治～昭和40年代】

- ・明治24年に東北本線が全線開通し、東北地域と首都圏が結ばれた。これにより、エネルギーや食糧の供給基地であった北海道も、東北・首都圏との関係が強化された。
- ・明治41年、青森と函館を結ぶ青函連絡船が就航。昭和40年代後半のピーク期まで貨物量・旅客流動量が増加を遂げた。
- ・昭和29年に洞爺丸転覆事故が発生、青函トンネルの建設が具体化するきっかけとなる。

#### 【昭和40年代】

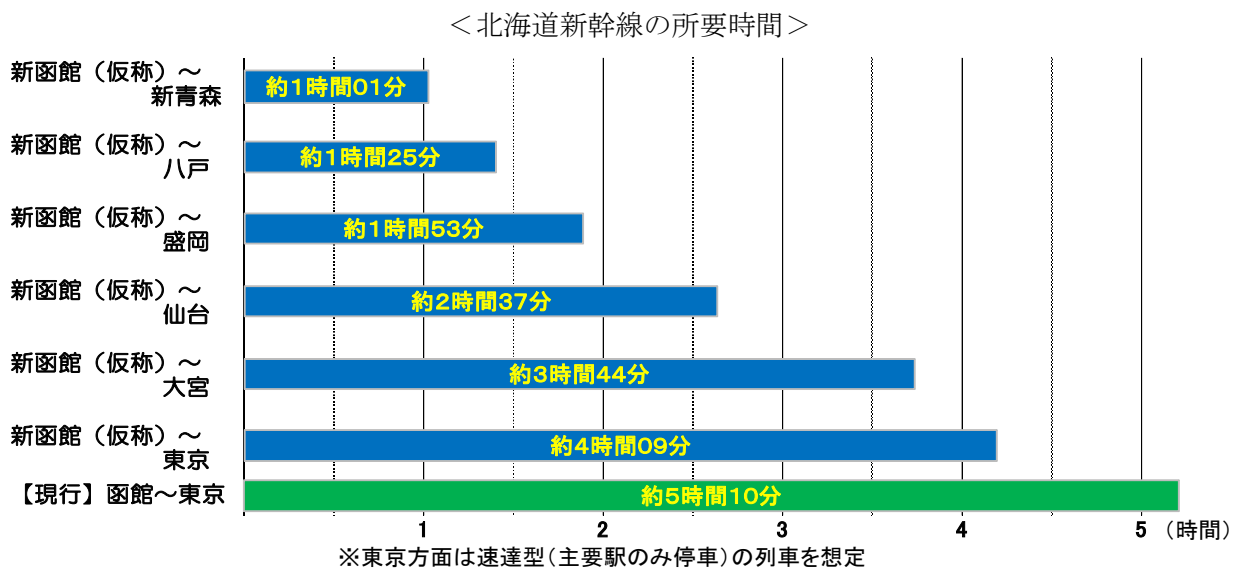
- ・東北での工業化が著しく進展、昭和43年の東北本線全線複線電化により、東北と首都圏の連携が深まる。一方、北海道はエネルギー革命等の影響により、エネルギー資源供給基地としての地位が低下し、北海道と東北の関係が弱まり始めた。

#### 【昭和50年代～】

- ・空港のジェット化、東北新幹線部分開業、東北自動車道延伸等により、東北地域における交通ネットワークが著しい進化を遂げ、首都圏との結びつきが強まる。
- ・北海道も空港整備等を通じて首都圏との関係強化を図るようになり、北海道と東北はそれぞれが独自に首都圏との関係を深めていったことで、両者間への関係は以前より弱まった。
- ・昭和63年に青函トンネルが開通したが、北海道・東北両地域の交流人口に大きな変化はみられなかった。また、開通当初から新幹線規格に対応しており、早期の新幹線延伸が期待されたが、北海道新幹線開業は平成27年度まで待たなければならなかった。

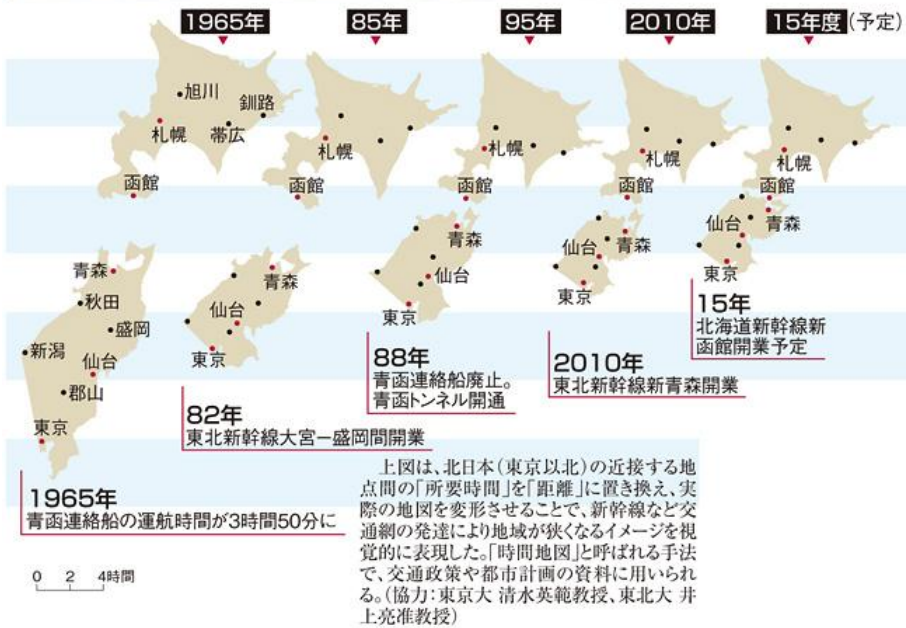
### (2) 北海道新幹線開業による交流人口増加、新たな交流ポテンシャル

北海道新幹線開業により、北海道と東北地域を結ぶ所要時間は大幅に短縮される。函館を起点として考えると、函館～札幌間より函館～仙台間の方が所要時間が短くなる。



※ 所要時間は、「第9回整備新幹線小委員会（H24.3.21開催）」別紙資料による。（現行の函館～東京間は北海道新幹線推進室調べ）ただし、開業後の運行ダイヤは、営業主体（JR旅客会社）が決定。

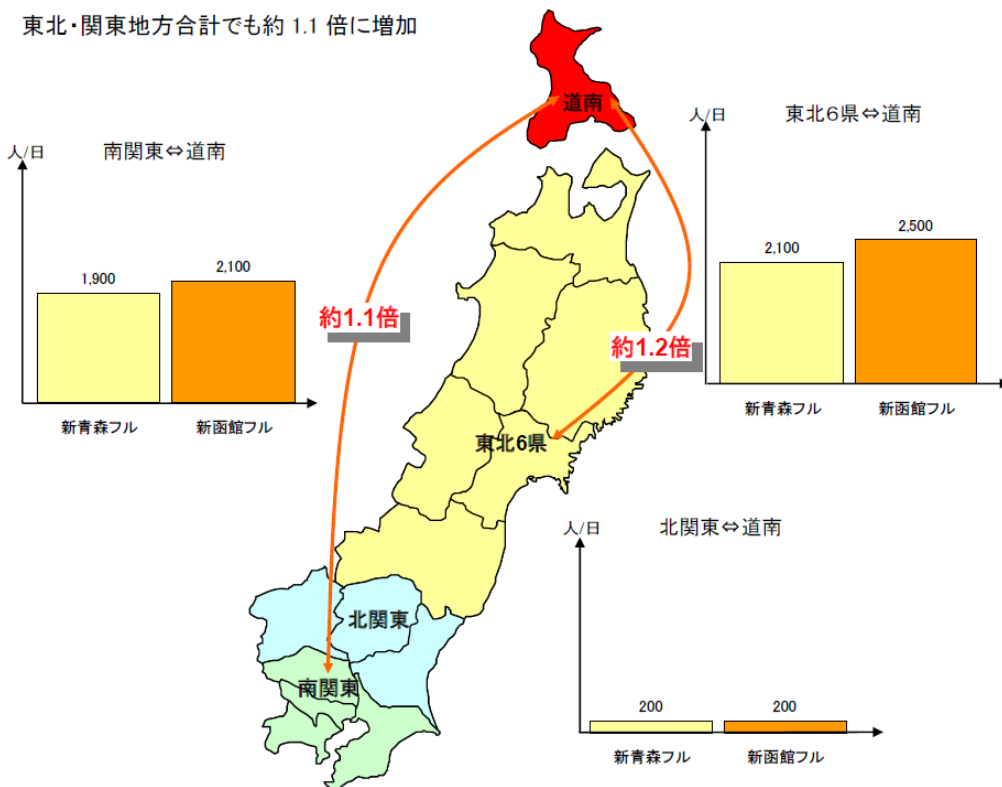
# 鉄道の発達により変わる「時間軸」



(資料提供) 北海道新聞社

交通量についても、道南地域と東北6県の交通量が約1.2倍、南関東と道南地域の交通量が約1.1倍と見込まれている。

東北・関東地方合計でも約1.1倍に増加



(資料) (独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構資料  
「北海道新幹線(新青森・新函館(仮称)間)事業に関する対応方針」より(平成24年3月)  
※需要予測結果は開業後50年間の平均値

参考) 東北新幹線延伸による効果 (盛岡、八戸、新青森)

開業による効果	
盛岡開業 (昭和 57 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「業務連絡・出張が便利になった」、「情報の収集活動が便利になった」、「仙台や東京へ出かける回数が増加した」 ※当時の事業所アンケート結果より</li> <li>・昭和 57 年の観光客入込数が前年比 110%増加</li> <li>・岩手県内のホテル数、客室数も大幅に増加</li> </ul>
八戸開業 (平成 14 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸駅内の公共施設、ホテル整備が進展</li> <li>・開業後 1 年間の利用者が 81 万人と、前年 (44 万人) の倍近くに増加</li> <li>・開業前は利用客の 7 割をビジネス客が占めていたが、開業後は観光客 20%、ビジネス客 57%にシフト</li> <li>・八戸から東京への輸送能力が開業前の 6,000 席から 12,000 席へと倍増</li> <li>・八戸駅の 1 日あたりの利用客数が、平成 12 年から平成 19 年にかけて倍増</li> </ul>
新青森開業 (平成 22 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京—新青森間が 3 時間 59 分から 3 時間 10 分へと 49 分短縮。同区間の利用者も開業前の 7,500 人から 9,200 人へと 23%増加</li> <li>・開業 3 ヶ月後に東日本大震災が発生し、新幹線利用者、観光客入込が減少したが、青森デスティネーションキャンペーンや JR 東日本の割引切符販売、大型コンベンション開催等の結果、平成 23 年 7 月には前年を上回る水準にまで回復</li> </ul> <p>&lt;開業前にやっておけばよかったこと、今後の課題&gt; ※ヒアリング結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その土地の観光コンテンツの総見直しとブラッシュアップ</li> <li>・滞在型・着地型観光の商品開発の必要性</li> <li>・PR強化</li> </ul>

参考) 青森県関係者ヒアリング『北海道新幹線開業に向けて』

<ul style="list-style-type: none"> <li>・浅虫温泉は、かつて湯の川温泉と青函の交流があったが現在は殆どない。新幹線開業を機にまた何らかの交流を持てればと期待する。</li> <li>・奥津軽駅 (仮称) を拠点として、津軽半島東部と西部の周遊観光を検討したい。下北半島と函館は一方通行の観光 (下北→函館) であり、シィラインの有効利用も必要。</li> <li>・「津軽海峡圏」をブランド化し、広域的に集客を図る仕組みを作りたい。</li> <li>・青函交流圏の意味を見直し、観光のみでなく、経済交流の基盤として津軽海峡圏を位置づけ、人、モノに加え、お金の流れを作りたい。</li> <li>・平成 26 年度の北陸新幹線金沢開業は当地域によって大きなライバルとなるため、函館のブランド力を広域的に活用することが重要と認識している。</li> </ul>
--

### (3) 自治体、商工会、観光協会、産業支援機関等へのアンケート調査結果

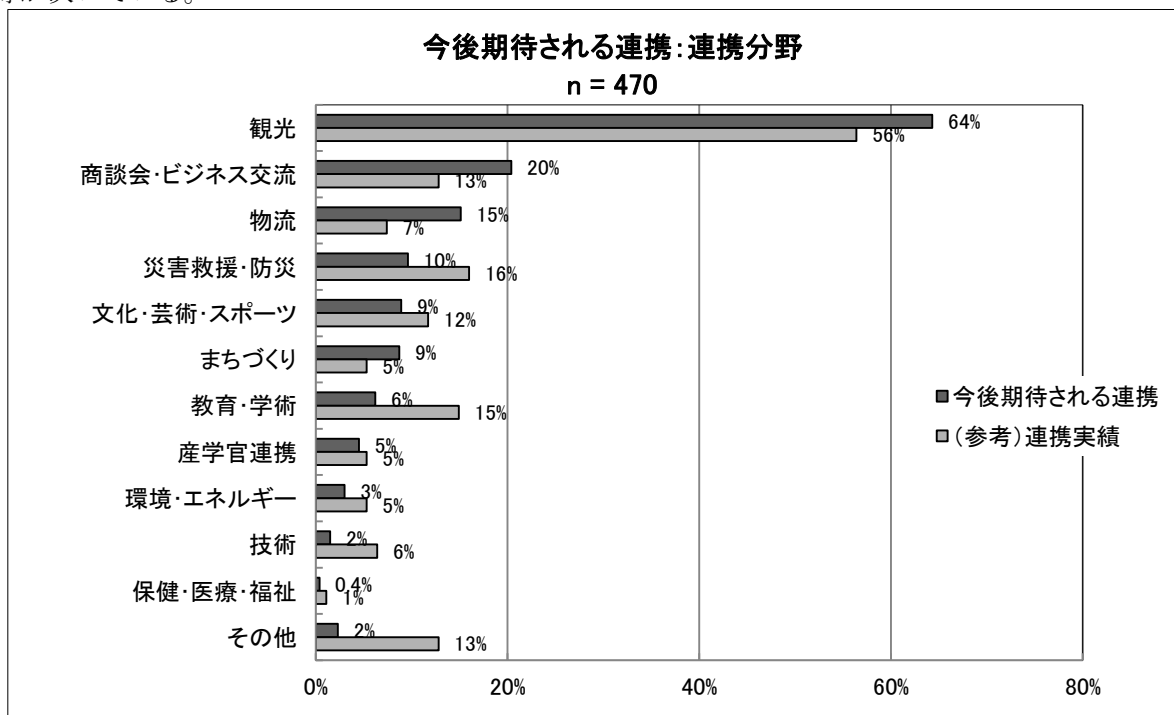
#### (3)-1 調査概要

項目	内容
調査対象	北海道および東北地域の自治体、商工会、観光協会、産業支援機関等
調査内容	北海道と東北の連携実績・内容、今後連携強化が期待される分野、連携にあたっての課題等
調査時期	平成 25 年 2 月
配布件数	889 件
回収件数	270 件 (回収率 30.4%)

### (3)-2 調査結果

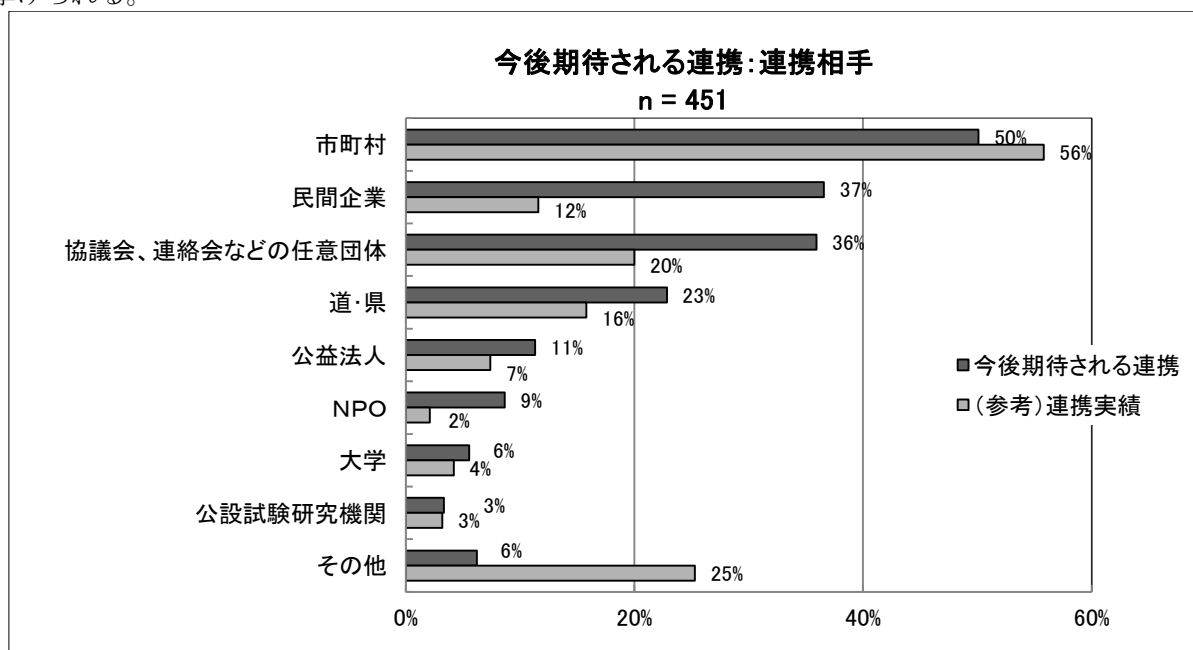
○連携実績および今後の連携が期待される分野

連携実績・今後への期待ともに観光が最も多くなっており、今後については「商談会・ビジネス交流」「物流」等が次いでいる。



○連携相手の実績および今後の連携が期待される連携相手

実績・今後の期待ともに「市町村」が多いが、今後については「民間企業」が多くなっていることが特徴として挙げられる。



(4) 北海道と東北の連携実績

分野	名称	内容																										
観光	新幹線開業はこだて魅力創造ゼミナール	北海道新幹線新函館開業対策推進機構が主催する、青森の成功例に学び、観光の担い手を育てるゼミナール。																										
	青森・函館津軽海峡紀行	JR 東日本が、北海道新幹線新青森-新函館（仮称）間開業に合わせた観光連携策である、青森・函館冬季観光キャンペーン（平成 24 年 12 月～平成 25 年 3 月 31 日）を実施。																										
	台湾への合同プロモーション	函館市・青森市・弘前市が 3 市合同で実施する台湾からの観光客誘致に向けた観光プロモーションで連携。																										
	教育旅行	北海道の中学生の修学旅行先として東北が定番となっている。																										
商談会、ビジネス交流	北海道・東北きりぎり品☆卸売商談会	<p>札幌市経済局が実施している、道内メーカーと道内卸売企業のマッチングを図る商談会としてスタートしたが、平成 24 年度より東北メーカーも参加するようになった。</p> <p>参加企業へのアンケートによると、北海道新幹線開業への対応として、「営業エリアの拡大」が 33%、「情報収集活動の強化」が 13%となっている。</p> <div data-bbox="491 851 1401 1326" data-label="Figure"> <p style="text-align: center;">北海道新幹線開業への対応策 n=24</p> <table border="1"> <caption>北海道新幹線開業への対応策 n=24</caption> <thead> <tr> <th>対応策</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>営業エリアの拡大</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>情報収集活動の強化</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>支社・事務所等の新設</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>従業員の採用活動エリアの拡大</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>支社・事務所等の統廃合</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>特に対応していない</td> <td>63%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>また、北海道新幹線開業による事業活動への影響として、「新しい連携先を見つけやすくなる」が 4 割を占めており、「現在連携している機関との連携を深めやすくなる」が 16%となっている。</p> <div data-bbox="491 1467 1401 1942" data-label="Figure"> <p style="text-align: center;">北海道新幹線開業による事業活動への影響 n=25</p> <table border="1"> <caption>北海道新幹線開業による事業活動への影響 n=25</caption> <thead> <tr> <th>影響</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新しい連携先を見つけやすくなる</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>あまり影響はないと思う</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>現在連携している機関との連携を深めやすくなる</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	対応策	割合	営業エリアの拡大	33%	情報収集活動の強化	13%	支社・事務所等の新設	4%	従業員の採用活動エリアの拡大	4%	支社・事務所等の統廃合	0%	その他	0%	特に対応していない	63%	影響	割合	新しい連携先を見つけやすくなる	40%	あまり影響はないと思う	40%	現在連携している機関との連携を深めやすくなる	16%	その他	8%
対応策	割合																											
営業エリアの拡大	33%																											
情報収集活動の強化	13%																											
支社・事務所等の新設	4%																											
従業員の採用活動エリアの拡大	4%																											
支社・事務所等の統廃合	0%																											
その他	0%																											
特に対応していない	63%																											
影響	割合																											
新しい連携先を見つけやすくなる	40%																											
あまり影響はないと思う	40%																											
現在連携している機関との連携を深めやすくなる	16%																											
その他	8%																											

企業進出事例	○東北における流通事業会社の北海道での展開	
	企業(業種/本社所在地)	概要
	サンワドー (ホームセンター/青森県青森市)	昭和47年に青森県黒石市で(有)三和部品として設立。道内には札幌市内に3店舗、函館地区に2店舗、砂川市を中心とする北空知地域に2店舗、登別市に1店舗展開。
	ケーズデンキ (家電量販店/宮城県名取市)	道内16店舗を展開。元々は胆振地区におけるそうご電器のフランチャイズだったが、2002年にそうご電器が破綻、提携を進めていたケーズデンキと契約を結び、当時経営していた「YES そうご電器」3店舗のうち2店舗をケーズデンキに転換し北海道進出を果たす。
	天香園 (果樹苗木生産/山形県東根市)	5年前に富良野市南麓郷に農場を購入。一粒500円以上の値がつくサクランボ「佐藤錦」の原木の移植準備を進める。広大な農地がある北海道に勝機を見出す。
	みちのく銀行 (金融/青森県青森市)	函館市に7店舗を展開。「新幹線を利用して事業拡大を目指す取引先企業を支援する」(杉本頭取)
	○札幌本社の流通事業会社の東北への展開	
	企業(業種/本社所在地)	概要
	ニトリホールディングス (家具/札幌市)	平成5年に茨城県に進出して以降、東北に23店舗を展開。 (青森4、秋田3、山形4、岩手3、宮城6、福島3)
	ホームマック (ホームセンター/釧路市)	昭和28年、盛岡市に株式会社石田商会を設立。東北に80店舗を展開。 (青森13、秋田14、山形4、岩手25、宮城24)。 平成7年に東北地盤の「メガマート」と「メイク」を統合して東北進出
	ツルハホールディングス (ドラッグストア/旭川市)	平成7年に東北進出。現在東北に320店舗。
	アイングループ (調剤薬局・ドラッグストア/札幌市)	平成7年に仙台市に北日本支社東北支店を開設。東北に72店舗を展開。 (青森7、秋田2、山形22、岩手10、宮城13、福島18) 東北の同業他社は中小が多く、地元での薬剤師確保が課題だったが道内の店舗網を活かして薬剤師の採用を強化。企業買収を進めた。
	アークスグループ (食品スーパー/札幌市)	平成23年10月、青森、岩手、秋田に47店舗を構えるユニバース(青森県八戸市)と経営統合して東北進出。
	オカモトグループ (GS・スポーツジム/帯広市)	平成17年東北地区にセルフSS展開スタート。東北に25店舗を展開。 (青森3、秋田3、山形3、岩手7、宮城4、福島5)



		<p>メディカルシステムネットワーク (調剤薬局/札幌市)</p> <p>カナモト (建機レンタル/札幌市)</p> <p>土屋ホールディングス (住宅/札幌市)</p> <p>佐藤木材工業 (住宅建材製造/函館市)</p> <p>竹田食品 (食品加工/函館)</p> <p>キャリアバンク (人材派遣/札幌)</p>	<p>平成 23 年 6 月、子会社が青森市で 1 店を開店し 4 店舗を展開。 (青森 1、宮城 3)</p> <p>平成 23 年、震災後～11 月にかけて東北に 3 営業所を設置。復旧・復興に必要な建設機械の需要を見込み進出。</p> <p>子会社を通じて仙台市内の拠点を拡充、新規着工増に対応。</p> <p>平成 24 年 3 月に岩手県北上市に同社最大規模の新工場を着工。東北での販路拡大を目指す。</p> <p>震災後、代替需要で宮城県での取り扱いが増えた。東北イオン店頭ではこれまで函館産のものはほとんどなかったが、現在は全体の 3 割程度を占める。全国の生産量は函館中心の北海道産が 5 割、気仙沼中心の宮城県産が 3 割程度だが、津波被害で気仙沼の水産関連工場が操業を停止。</p> <p>平成 24 年から盛岡市、仙台市に拠点を開設。復興需要に合わせて展開。北海道と同様、東北は地元での就職志向が強くノウハウを活かす。</p>
	金融機関同士の業務提携		平成 25 年、北海道新幹線の開業を見据え業務提携することを発表。この提携は、北海道新幹線開業に伴い青函で 185 万人の経済圏が生まれることに着目し、新幹線を切り口としたビジネス展開を想定することで合意。食や観光の分野での連携を強調している。
	製品開発での連携		<p>【六花酒造株式会社（青森）】 函館市の料理勉強会「クラブ・ガストロノミー・バリアドス」が道南地域の米品種「マツマエ」を使用した酒の製造を、青森の酒造メーカーに委託。</p> <p>【富士酒造株式会社（山形）】 木古内町制 70 周年を記念し、木古内町産のコメ「ほのか 224」「ほしのゆめ」を使用した純米酒の製造を、木古内町と姉妹都市である山形県鶴岡市の酒造メーカーに委託。</p> <p>【服部醸造株式会社（八雲町）】 八雲町の老舗味噌・醤油醸造メーカーである服部醸造株式会社が、青函連携をテーマとし青森県産にんにくを使用した醤油を開発。</p>
づくり	大門バル		青函の連携強化と地域経済活性化を目標とする、食を活用した飲み歩きイベントを実施。
災害救助・防災	NPO 法人ねおすの被災地支援		札幌の NPO 法人ねおすが、東日本大震災の被災地支援として、ボランティアツーリズム（ボランティア活動＋農業・漁業・自然体験）を東北各地で実施。
	道内への企業移転		東日本大震災を契機に、リスク分散のために道内に移転する企業、被災地から道内に移転する企業が相次いでおり、受入側として道も積極的な誘致活動を展開している。

＜リスク分散のため道内に移転した企業＞

業種	社名	内容	従業員数
自動車部品	大岡技研(愛知)	室蘭市に自動車用精密鍛造歯車の製造工場を新設	40人
IT関連	アラヤ(東京)	データのバックアップ拠点分散化のため札幌市に子会社設立	6人
IT関連	日本クリエイティブシステム(東京)	室蘭市に事業所を新設	8人

＜被災地から道内に移転した企業＞

業種	社名	内容	従業員数
食品	武蔵野フーズ	すし用切り身の生産拠点を移転(岩手県陸前高田市⇒札幌)	30人
食品	太洋産業	サケフレーク生産ラインを移転(岩手県大船渡市⇒釧路市)	9人
食品	三豊	被災工場(福島県広野町)の魚卵製品などを函館工場(北斗)で増産	7人
食品	マルジン三浦水産	ホタテ加工品の生産拠点を移転(宮城県南三陸町⇒八雲町)	2人
食品	川石水産	ホタテ加工品の生産拠点を移転(岩手県山田町⇒八雲町)	1人
造船	ケーヤード	漁船の生産拠点移転(宮城県気仙沼市⇒根室市)	15人
製紙	日本製紙	宮城県石巻市の被災工場分を旭川事業所で増産	-
農業	宮城県亘理町の農家	イチゴの生産拠点を伊達市に移転	6戸 11人
養豚	太平洋ブリーディング太平洋牧場	グループ企業へ従業員を移転(福島県富岡町⇒上富良野町)	5人
厨房機器製造	タニコー	福島県南相馬市の被災工場分を北海道工場(岩見沢)で増産	26人

(資料) 北海道新聞記事より作成

文化	縄文回廊	平成15年の北海道・北東北知事サミットにおいて、北海道、青森、秋田、岩手各県の知事が文化交流をテーマに協議し、縄文時代の遺跡が多い地域特性を活かし「北の縄文文化回廊」と名づけて交流や情報発信を進めることや、国内有数の食料供給地域として食の安全・安心確保に向けた連携を強め、食文化に関する情報をインターネットで提供することなどで一致。地域の魅力と価値を内外にアピールすることを目的としており、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向け、普及・啓発活動を行っている。
	北海道・北東北知事サミット	北海道と北東北3県(青森県、岩手県、秋田県)の知事が、地域の発展を目指し、共通の政策課題等について意見交換し、連携事業の合意や決議を行っている。当初は平成9年に北東北3県で始まり、平成13年からは北海道も加わり、「北海道・北東北知事サミット」として開催している。

福祉・保健・医療・	津軽海峡フェリー	<p>昭和 39 年に青森県大間町と函館間にフェリー航路が開設された。大間町は周辺に医療機関が少なく、同フェリーを利用し函館で受診する住民も多く、大間町民にとっての「命の航路」とも呼ばれることもある。大間町の調査では、平成 19 年度に北海道の医療機関を受診した大間町民は、国民健康保険加入者で延べ約 2,900 人、社会保険などを加えた推計は約 4,900 人とされている。</p>
協議会	青函圏交流・連携推進会議	<p>昭和 63 年 3 月に青函トンネルが開通した事を一つの契機として、津軽海峡を挟む両地域では、産学官による「青函インターブロック交流圏構想推進協議会」が組織され、一層の交流・連携を図りながら圏域が一体となった経済文化圏の形成を目指してきた。</p> <p>平成 22 年 12 月に東北新幹線が全線開業し、平成 27 年度に予定される北海道新幹線新青森～新函館（仮称）間の開通により、更なる交流・連携が期待されることから、平成 23 年 4 月より既存の団体に加え、交流・連携に取り組む団体に広く会員としての参画を呼び掛け「青函圏交流・連携推進会議」として新たな活動を始めた。</p> <p>青函圏交流・連携推進会議では、様々な主体による多様な交流の拡大・連携強化を図り、青函圏が一体となった経済文化圏の形成を目指すための指針として平成 23 年 7 月に「青函圏交流・連携ビジョン」を策定。交流団体による活動事例の発表や会員からの情報提供の場を設けるとともに、講演会やワークショップなどを開催し、会員相互の交流・情報交換を促すことで青函圏交流・連携のプラットフォームとしての役割を担っている。</p>
	函館商工会議所と青森商工会議所の会員事業所パートナーシップ支援事業	<p>函館商工会議所と青森商工会議所は、双方の会員合計である 5,570 事業者に対し、「会員事業所パートナーシップ支援事業」を展開している。</p> <p>活動目標として、青森・函館会員事業所による「商品開発」「販路拡大」「技術提携・連携」等の事業活動を促進するため、会員事業所単独またはコンソーシアム（2 事業所以上の共同体・部会グループなど）での青函パートナーシップによる事業提案を募集し、両地域の関心のある事業所に対し、プレゼンテーションの場を提供し、青函での取組みの実現を目指している。</p> <p>平成 24 年度は、試験的に青森商工会議所会員事業所からの事業提案を募り、函館でのプレゼンテーションを行う。次年度は、函館側からの提案を青森において発表予定。</p>
	北海道・東北むすぶネット	<p>北海道商工会議所連合会と東北六県商工会議所連合会は、北海道・東北地域が一つの経済圏として、産業間の交流・連携を活性化することを目的として、両地域の企業がもつ、製品・サービス情報を共有し、取引先や販路の拡大を目指した『北海道・東北むすぶネット』を開設した。</p>
	「東北・北海道交流連絡協議会（仮称）」	<p>平成 25 年 2 月、北海道観光振興機構と、東北 6 県などの官民でつくる東北観光推進機構が連携組織「東北・北海道交流連絡協議会（仮称）」を 3 月に設立。北海道新幹線開業を見据え、両地域を周遊する旅行商品の開発や国内外での PR を、協力して展開することを目標としている。</p> <p>具体的には、北海道と東北を新幹線やフェリーで巡るツアーの開発、観光ポスターの共同製作、共通のホームページ開設等を通じ、首都圏や海外で誘客活動を進めていくとしている。この他、両地域内において、双方の魅力を伝える観光セミナーの開催、旅館・ホテルの経営者や従業員を対象とする宿泊視察ツアー、経営手法の勉強会等を行う。</p>
	北海道東北未来戦略会議	<p>「北海道・東北地域（ほくとう地域）」の総合的な発展に向けて、官民が連携し、具体的な施策を検討、その推進を図ることを目的に設立された。</p> <p>平成 23 年 12 月、香港に北海道と東北 6 県の地場産品のみを展示するアンテナショップをプレオープンした。これは、香港の旅行会社「縦横遊」が北海道・東北地域の産品を仕入れ、アンテナショップにて展示販売するという形式</p>

をとっており、物流や商流の体制整備にあたっては、日本通運グループ、JTBグループ、各道県の物産協会等が連携した。

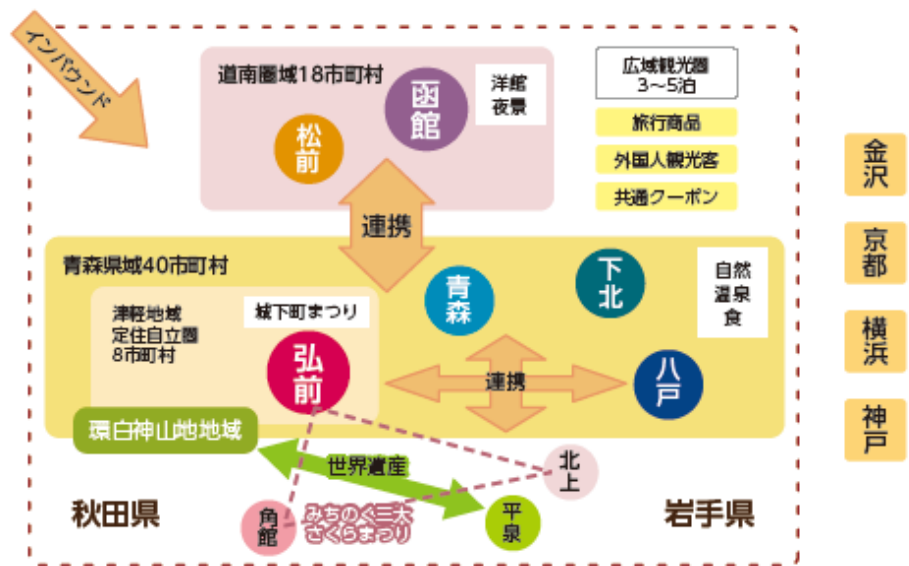
平成24年10月、「Phoenix Japan ～北海道・東北からのメッセージ～」と題した観光物産のPRイベントを開催。東日本大震災からの復興に邁進しているというメッセージの伝達と、観光PRや物産販売を通じて台湾の人々に北海道・東北の興味を喚起し旅行先として想起を高めることを目的として実施。

津軽海峡観光  
クラスター会  
議

北海道新幹線開業を見据え、観光を核とした地域経済の活性化を実現するため、平成23年4月、函館商工会議所と弘前商工会議所、みちのく銀行が「津軽海峡観光クラスター会議」を設立。

観光資源に恵まれた函館市と弘前市がクラスター（集合体）を構成すべく、連携・協力することで他の県にない質の高い観光を創出し津軽海峡経済圏の牽引役を目指す。

<津軽海峡観光クラスターイメージ>



## (5) 北日本交流・連携フォーラムの開催

北海道新幹線開業に伴う北海道と東北地域との新たな交流連携のあり方を議論するフォーラムを開催し、道民および東北地域住民に対して北海道新幹線開業の意義や今後の連携可能性について広く周知する。

### ①フォーラム概要

#### ■実施概要

開催日時：平成 25 年 2 月 8 日（金）

開催場所：マリエール函館

参加者：323 名

#### ■プログラム

主催者挨拶 高橋 はるみ 北海道知事  
開催地代表挨拶 工藤 壽樹 氏 函館市長  
青森県代表挨拶 千葉 耕悦 氏 青森県新幹線・並行在来線調整監（青森県知事代理）  
基調講演 演題『新幹線ネットワークの全国展開～その意義と課題～』  
講師 中川 大 氏 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 教授

#### パネルディスカッション

テーマ『北海道と東北との連携強化に向けて』

コーディネーター 小磯 修二 氏 北海道大学公共政策大学院 特任教授

パネリスト 相澤 徹 氏 公立大学法人岩手県立大学 理事長

勝木 晃之郎 氏 北海道新聞社東北臨時支局 編集委員

隅田 耕次 氏 津軽海峡フェリー株式会社 代表取締役 専務執行役員

永澤 大樹 氏 北海道新幹線新函館開業対策推進機構 幹事・事務局長  
函館商工会議所 地域振興課長

古川 公一 氏 株式会社アークス 執行役員 コーポレート部門担当

六角 正人 氏 青森商工会議所 地域振興部長

## ② 発言要旨

### 基調講演発言要旨

○京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻教授 中川 大 氏

#### 【世界的に見た高速鉄道ネットワークと日本における課題】

- ・ 高速鉄道の速度が上がったことで、高速鉄道ネットワークは世界的に拡大。かつて日本は高速鉄道整備において日本はトップクラスにあったが、根拠のないマスコミのネガティブキャンペーンにより、先頭集団の後方からやや遅れ気味という位置になっている。
- ・ 特にフランス、ドイツでは人口 20 万人以上の都市には高速鉄道が通っている状況。整備新幹線だけではなくて基本計画路線も全部出来れば、フランスやドイツ並みのネットワークになるが進捗していない。
- ・ 社会資本というものはその時代その時代に依じて、もっとも次の世代に対して役に立つようなものをなんとかしてでも作って、次の世代につなげていくことが重要。
- ・ 東北新幹線は東日本大震災からの復旧に、九州新幹線も地域の活性化などに大きく貢献している。北海道新幹線も札幌まで早期につなげた方が採算の面でも便益の面でも高くなるのは明白。

#### 【新幹線を活用するために】

- ・ 交通システムは幹線となる新幹線から、在来線、鉄道路線、市内の路面電車、あるいはコミュニティーバスといったネットワークとして繋がってこそ、地域交通、交通システムといえる。日本は、新幹線と地域交通とは分離したものであると捕らえてきたが、政策によっては工夫の余地があるはず。在来線も新幹線が出来、幹線を担うことで活力を持たせることができる。
- ・ 新幹線到着後 10 分後に地方行きの列車が発車するなど、新幹線と地域をどうダイヤでつなげていくか考える必要がある。
- ・ スイスの公共交通はパルスタイムテーブルシステムで接続されている。便利に接続されていれば運行本数が少なくてもある程度それを補うこともできる。
- ・ 新幹線で来る人は自動車に乗って来ないので、自動車なしでも町を十分に回ることが出来るネットワークが必要。
- ・ 賑わっている地方都市は、近年高速鉄道が開通した都市を含め世界的に見ても、ほとんどが街中に豊かな歩行空間を持っており、車が入ってこないようなシステムにしているところが多い。新幹線を核として地域公共交通ネットワークをしっかりと作っていく必要がある。

## (5)-3 発言要旨

○公立大学法人岩手県立大学理事長 相澤 徹 氏

#### 【これまでの取組状況】

- ・ 東北地域は経済的に厳しい状況が続きそれが深まってきている。グローバル化や超高齢化社会の到来を乗り切っていく上で広域連携は重要。実績のあることから始めた方が良いのでは。
- ・ 県にいたころ、東北経済連合会や経済会からの要請で「北海道・東北未来戦略会議」をつくることに努力した。現在も続いており、その中から東北の観光推進機構や、近年の香港における北海道・東北のアンテナショップなどが生まれている。
- ・ 知事と経済界のトップが「戦略志向」に立って議論することが重要。東北の観光推進機構づくりについても、各県の抵抗はあったが実現にこぎつけた。

#### 【今後の課題】

- ・ 観光、ものづくり、木材などの面で、グローバル時代に対応した産業を育てることが必要。北海道と東北が手を組み産業を育てていくべき。
- ・ 連携を推進していくには北海道―東北の繋がりを絶えず意識するような仕組み作りが必要で、ある程度財源や人材を集中して、人が変わっても連携が続くようなシステムづくりが求められている。

○青森商工会議所地域振興部長 六角 正人 氏

【これまでの取組状況】

- ・ 昨年度まで商工会議所の新幹線まちづくり対策部に所属していた。
- ・ 青森は開業後観光客が押し寄せたが震災で激減、夏頃に回復して、現在は震災前くらいに戻っている。
- ・ これまでも青森商工会議所 青函圏交流特別委員会で青函連携による経済交流について模索してきた。青函双方にて議論した結果、会員事業所からの提案方式による青森、函館双方でビジネスマッチングを図る場「会員事業所パートナーシップ構築懇談会」を設けることとなった。まずは、青森側から3月に青函の経済連携事業について提案を行うこととなっている。

【今後の課題】

- ・ 連携事業のコーディネーターが必要。民間は動きが早いですが、公的なコーディネート機能を早くに構築できればより多くの取組が可能。

○北海道新聞社東北臨時支局編集委員 勝木 晃之郎 氏

【これまでの取組状況】

- ・ 大型漁船の造船、修理・補修や、牡蠣の稚貝といった面で水産業は北海道と東北の繋がりが非常に強い。震災を機に気仙沼と同等の水産業者がプレミアム秋刀魚の開発で連携。
- ・ 山形・遊佐とオホーツクでは、高級ブランドサケの資源拡大で連携の芽が出ている。
- ・ 東北の中でも連携に課題はあり、北海道が触媒となる可能性もある。

【今後の課題】

ライバルとなる北陸新幹線沿線では相互協定の動きや高いサービスレベルの接客が見られる。これに対抗するため、異なる強みを持つ北海道と東北が危機感をもって連携する必要がある。

○津軽海峡フェリー株式会社代表取締役専務執行役員 隅田 耕次 氏

【これまでの取組状況】

- ・ 函館―青森、函館―大間の二航路を運航し、年間で乗用車 10 万台、貨物トラック 17 万台、旅客 37 万人を運搬。利用者内訳は北海道 32%、東北 41%、関東 21%、他 7%。
- ・ 観光と物産が重要と認識。新幹線は競合になりうるが、交流人口増大の目玉として期待している。
- ・ 2 年ほど前から「プロジェクト Tug」という取組を行い、北海道、東北の距離感を感じて貰うためフリーペーパーやサイト等を通じて情報発信をしている。
- ・ また「フェリポン」事業で地元事業者と連携しクーポンを発行したり、「津軽海峡 web ショップ」で地元産の特産品の販売したりするなど地域密着型の事業にも積極的に取り組んでいる。
- ・ 大韓航空などと提携し、函館イン―青森アウト、またはその逆路線の韓国人修学旅行生を誘致や、香港・台湾向けに冬の青森―北海道航路ツアーなどを醸成。

【今後の課題】

- ・ パルスタイムテーブルシステムのようなもので津軽海峡エリアを結べないか。
- ・ 乗り放題の企画に参画しているが、各駅で降りて貰えるよう、魅力作りをしてそれを如何に伝えるか、地域ごとに掘り起こしていきたい。
- ・ 下北の情報発信基地としてターミナルをオープンさせ、来年以降函館には大型クルーズ客船が寄港する。青函圏を日帰りで回れるツアーなど検討していきたい。

○北海道新幹線新函館開業対策推進機構幹事・事務局長、函館商工会議所地域振興課長 永澤 大樹 氏

【これまでの取組状況】

- ・ 商工会議所青年部では「ブルーボックスプロジェクト」として青函のロゴマークや試作品を行う取組を実施。
- ・ 平成 23 年 4 月の弘前商工会議所との津軽海峡観光クラスター会議をきっかけ、または一助として、北海道一東北間で様々な交流が生まれている。例えば北洋銀行と青森銀行の提携、台湾への合同プロモーション、観光イベントへの相互出店、物産展を通じた相互交流、相互のバル街を絡めたツアー、合コンイベントなど。また、函館の復刻米で弘前の酒蔵が地酒を醸すプロジェクトも遂行中。
- ・ 新幹線機構としては、冊子「青森・弘前・函館冬めぐり旅」を函館・弘前で連携して制作し、これを首都圏の百貨店の催事、物産展の催事で配布した。
- ・ プロモーション事業として、道南の市町村が合同で「みなみ北海道グルメパーク」を開催。まだ認知度の低い首都圏へアプローチしている。
- ・ 青森県内の地域づくり、魅力づくりに関わる方を講師としてまねき、新幹線開業時向け函館の魅力づくりを学ぶ「北海道新幹線開業魅力創造ゼミナール」を実施中。

【今後の課題】

- ・ 新幹線が出来ることで、点と点で移動してきたものが線になり、面になり、マーケットの可能性が広がる。ビジネスの展開において如何に利活用していくか3年間で戦略を立てていく必要がある。
- ・ 東北の企業は北海道に比べて競争意識や他の経済圏への意識が高く、ここ2年くらいで北海道をマーケットとして捕らえ始めたのが伝わってくる。
- ・ 「連携」自体が目的になるのではなく、本来の目的を達成するための手段でなくてはいけない。

○株式会社アークス執行役員コーポレート部門担当 古川 公一 氏

【これまでの取組状況】

- ・ 近年、(株)ユニバース（八戸市）、(株)ジョイス（仙台市）と経営統合。
- ・ 事情の違う地域同士では連携も難しい面もあるが、道内での広域連携の経験を、海を越えた連携に活かすことが出来ている。
- ・ 東北は首都圏の方を向いているのが実情。経営統合の件では、北海道企業の東北進出といわれるが、東北企業の北上という捕らえ方もできる。

【今後の課題】

- ・ 函館開業後は函館にとって札幌より仙台の方が時間的に近くなる。首都圏を間にいれない地域同士の連携が必要。
- ・ カジノ誘致など突飛と思われる案件もあるが、上手くいかなそうなことでも課題を一つ一つ潰していくことに意義があり、検討することが大事。



## (6) まとめ（連携を進めるにあたっての課題整理）

### ①連携強化に向けたステップ

連携強化に向けたステップは、大まかに下記5段階に分けられると考えられる。

段階	ステージ	検討・取組事項等
ステップ1	連携検討	・どのような連携が考えられるか ・他地域で連携実績があるか
ステップ2	連携準備	・地域間での事前準備 ・協議会等、連携推進母体の設置
ステップ3	連携開始	・連携の対象地域内外への周知 ・プレイヤーの確保
ステップ4	連携推進	・連携の知名度 ・プレイヤーの拡大
ステップ5	連携定着、他分野との連携	・連携の幅を広げるために他分野との連携を念頭に置いた連携推進

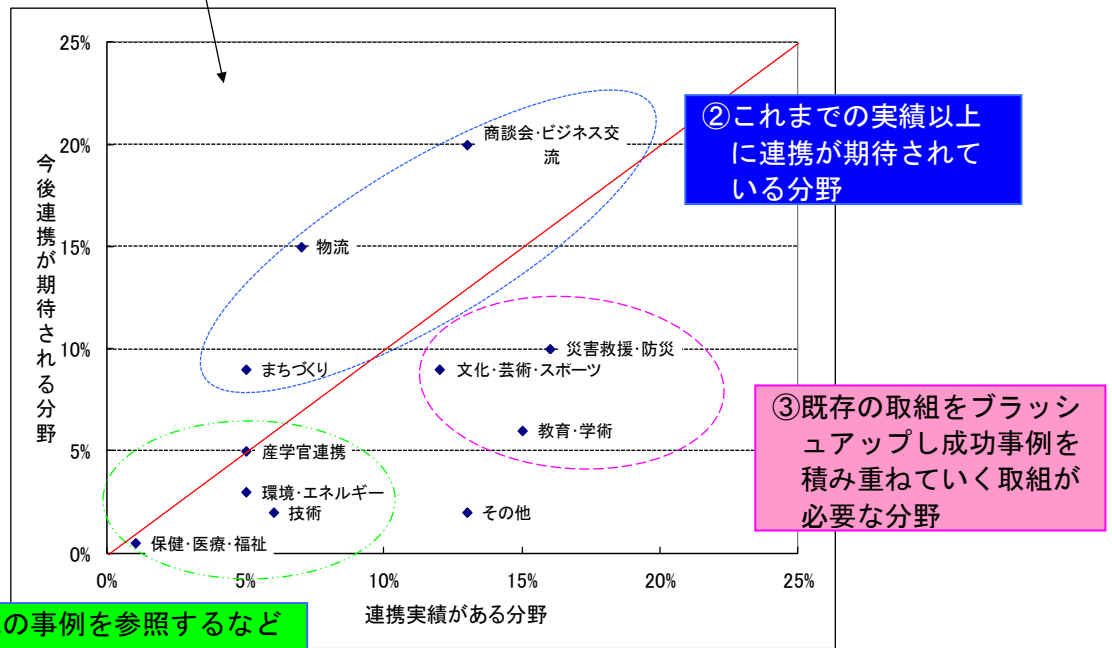
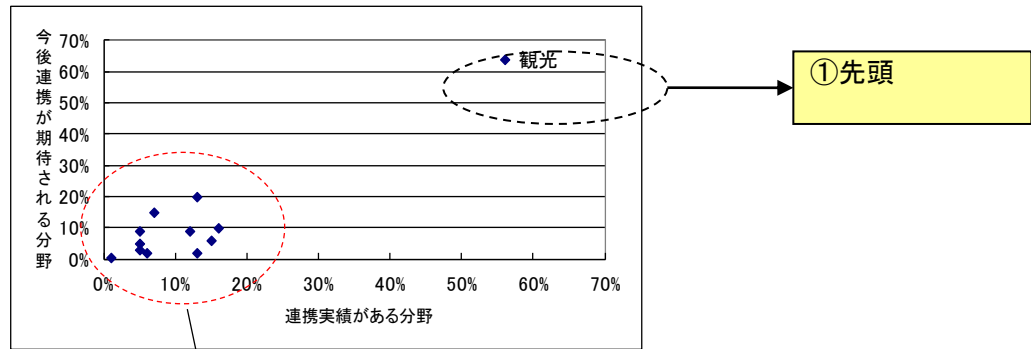
以下では、アンケートの結果とりまとめで示した4類型に沿って、各テーマの取り組むべきステップについて示す。

### ② 連携強化に向けた方向性

「自治体、商工会、観光協会、産業支援機関等へのアンケート調査」の結果に基づき、下記の4類型に分類する。

類型	内容	分野
第1グループ	先頭を走るグループ	「観光」
第2グループ	これまでの実績以上に連携が期待されている分野	「商談会・ビジネス交流」「物流」「まちづくり」
第3グループ	既存の取組をブラッシュアップし成功事例を積み重ねていく取組が必要な分野	「災害救援・防災」「文化・芸術・スポーツ」「教育・学術」
第4グループ	他地域の事例を参照するなどして今後の取り組み方向を検討する必要がある分野	「産学官連携」「環境・エネルギー」「技術」「保健・医療・福祉」

○連携実績がある分野と、今後連携が期待される分野のプロット図



④他地域の事例を参照するなどして今後の取り組み方向を検討する必要のある分野

※「連携実績がある分野」と「今後連携が期待される分野」の回答率をプロットしたもの

①第1グループ：「観光」

これまでの実績、今後の期待ともに突出した分野である。北海道新幹線開業による時短効果、交流人口増加が想定される中で、最もイメージしやすく、効果も明確な分野ともいえる。

観光は、既に多くの具体的取組実績があり、観光振興機構の連携も発表されていることから、さらなる発展を進めるとともに、他グループの連携度アップにも貢献していく必要がある。

例えば「保健・医療・福祉」と組み合わせた「医療観光」、「ヘルスツーリズム」、「文化・芸術・スポーツ」と連携した「スポーツ合宿」、「広域の芸術祭」といった取組構築への貢献である。

<観光連携に向けた取り組み>

観光独自の取組としては、海外に対し北海道、東北をセットにした売り方をしていく連携が考えられる。海外旅行商品を見ると、「北欧」であればフィンランド・スウェーデン・ノルウェー、「ヨーロッパ・アルプス」であればスイス・イタリア・オーストリア（さらにはフランス、ドイツにも跨る）といった旅行商品を多く目にする。

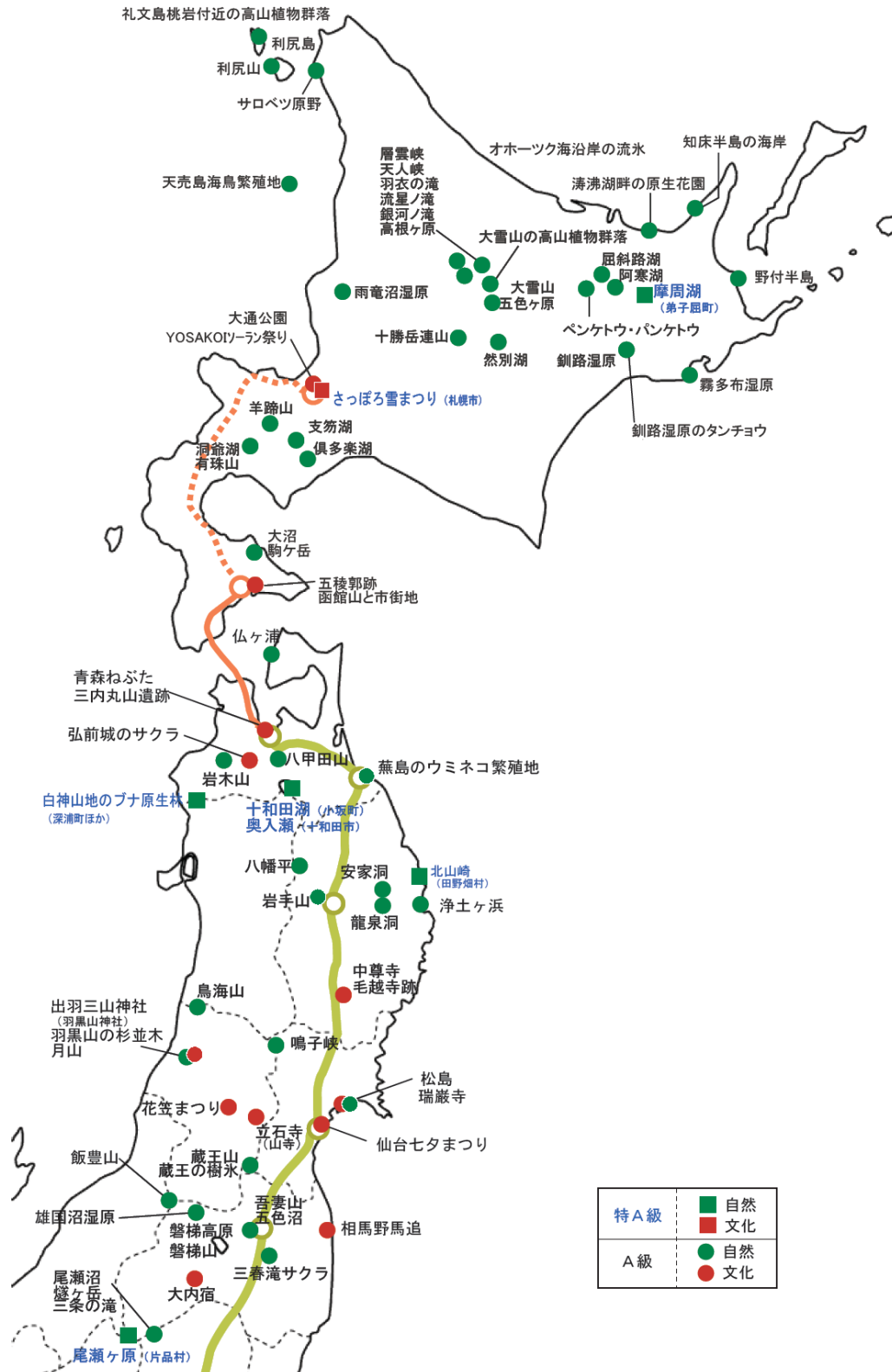
このような広域ブロックや国を超えた広域観光の観点から見ると、北海道・東北地域には、魅力的な共通の観光資源が多く見られる。例えば、この地域には日本に4か所ある世界自然遺産のうち知床と白神山地を有するほか、世界文化遺産については平泉が2011年に登録を果たしている。

また、日本に33か所あるラムサール条約の登録湿地のうち、釧路湿原や伊豆沼・内沼など、わが国の半数を超える21か所を擁している。そのほかにも、美しい摩周湖や十和田湖、冬場2月頃が見ごろの網走・紋別の流氷や蔵王の樹氷、貴重な自然を今に伝える尾瀬ヶ原等といった他地域にはない、世界的にも有名な質の高い観光資源が数多く存在する。

<日本の世界遺産>

	北海道・東北地域	他の地域
自然遺産	①白神山地（1993年） ②知床（2005年）	①屋久島（1993年） ②小笠原諸島（2011年）
文化遺産	平泉（2011年）	①法隆寺地域の仏教建築物（1993年） ②姫路城（1993年） ③古都京都の文化財〔京都市・宇治市・大津市〕（1994年） ④白川郷・五箇山の合掌造り集落（1995年） ⑤原爆ドーム（1996年） ⑥厳島神社（1996年） ⑦古都奈良の文化財（1998年） ⑧日光の社寺（1999年） ⑨琉球王国のグスク及び関連遺産群（2000年） ⑩紀伊山地の霊場と参詣道（2004年） ⑪石見銀山遺跡とその文化的景観（2007年）

<観光資源マップ>



<b>特A級</b>	わが国を代表する資源でかつ世界にも誇示しうるもの。わが国のイメージ構成の基調となりうるもの
<b>A級</b>	特A級に準じ、その誘致力は全国的で観光重点地域の原動力として重要な役割をもつもの

(資料) JTB観光資源マップを基に作成

## ②第2グループ：「商談会・ビジネス交流」「物流」「まちづくり」

### ○商談会・ビジネス交流

道内でも実績があり、これまでの実績以上に連携が期待されている分野である。協議会のような組織はあまりないが、それに類する推進組織もある。「北海道きり品商談会」のような公的機関が主催する交流を進めるとともに、民間主導による連携推進へと取組を進めていくのがよいと考えられる。

### ○物流

民間部門での物流チャンネルはあるものの、効率性等において課題が多く、今後連携の準備から入っていく必要がある分野である。海峡を挟む地域が物流で連携している事例は国内では少ないため、この分野については独自の連携方策を検討していく必要があると考えられる。

### ○まちづくり

バル街や屋台村同士の交流が生まれ、函館市と青森市、八戸市、弘前市などが互いに視察したり合同企画を行っており、推進する組織もある。一層の交流と長期的な連携が期待される。

## ③第3グループ：「災害救援・防災」「文化・芸術・スポーツ」「教育・学術」

### ○災害救援・防災

これまで連携というものはあまり想定されてこなかった分野であるが、東日本大震災を受け、北海道でもバックアップ機能等が検討されている。北海道は日本海側、太平洋側双方からの支援が可能であり、食糧基地としての役割も果たしていることから、今後広域での連携を推進していくべき分野である。

### ○文化・芸術・スポーツ

既にスポーツ合宿、縄文遺跡に係る連携など、実績もある。これから連携を始めていくテーマも含めて、今後連携を推進していくことが期待される。

### ○教育・学術

観光と重なる部分として、教育旅行等については、既に多くの実績があり、今後さらに進めていくことで飛躍が期待される。共同研究など個別の実績があり、今後連携の萌芽が期待される場所である。

## ④第4グループ：「産学官連携」「環境・エネルギー」「技術」「保健・医療・福祉」

### ○産学官連携

一部連携が始まっているが、これからさらに裾野を拡げていける可能性を持った分野である。

### ○環境・エネルギー

広域連携が難しいと考えられてきた分野であるが、近年のエネルギー問題もあり、大きな注目を集めているところである。今後によっては、短期間での連携強化が期待される。

### ○技術

共同開発や技術供与等の交流を指す分野であるが、連携は個別的なものに留まっている。今後の展開について、共同開発については、産学官連携やビジネス交流の枠組と合わせて進められていくポテンシャルを有している。

○保健・医療・福祉

東日本大震災により広域での対応の重要性を国民全体が認識した分野である。バックアップ拠点構想のような枠組の中にも含まれているが、今後さらに人口減少・少子高齢化が進むことや、防災・減災への関心が高まる中で、どのような展開が考えられるのかを議論していく必要がある。

熟度	分野	今後の取組
高い ↑連携熟度 ↓低い	観光	・ 連携の核として、事業者同士の連携の更なる促進が期待される。
	商談会・ビジネス交流 物流 まちづくり	・ これまでの実績以上に今後の連携に向けた期待値が大きい。新幹線開業により連携の芽が育つと関係者が期待している分野。
	災害救援・防災 文化・芸術・スポーツ 教育・学術	・ これまでの実績の割に、今後の連携に向けた期待値が小さい。これまで連携をやってみたがうまくいかなかった分野である可能性があり、成功事例を積み重ねていく必要がある。
	産学官連携 環境・エネルギー 技術 保健・医療・福祉	・ 今回のアンケートでは連携としてこれまで実績が少なく、新幹線開業後に向けても認識が低い。 ・ 一方グローバル社会、超高齢化社会の到来に向けて非常に重要な分野でもあり、他地域の取組の今後の動向を見て取り入れを検討していくことが期待される。

(6) -3 北海道・東北地域の連携強化に向けて

以上、本調査において連携事例の収集、アンケート調査の実施、フォーラムの開催等を通じて、連携強化の可能性について検証した。

北海道と東北地域はいずれも首都圏との歴史を近年深めてきた経緯があり、両地域間の連携事例は、さまざまに存在してはいるものの、個別事例が散発的に行われている印象が強く、今後、点が線になり面になるという過程を経ていく必要がある。

連携強化にあたっては、アンケートでは連携のきっかけや情報がないことなどが課題として挙げられている。

分野別にみると、観光への期待が突出して高くなっているが、観光のような最もわかりやすい連携形態が他分野へと波及していき、新たな連携を生むような好循環が求められる。

また、これまで連携主体という行政が関与するケースが多かったが、今後は行政に加え、民間部門の参画も期待されている。

北海道新幹線時代を迎えようとしているので、今後の両地域の連携の裾野の広がりや深化が期待される。

